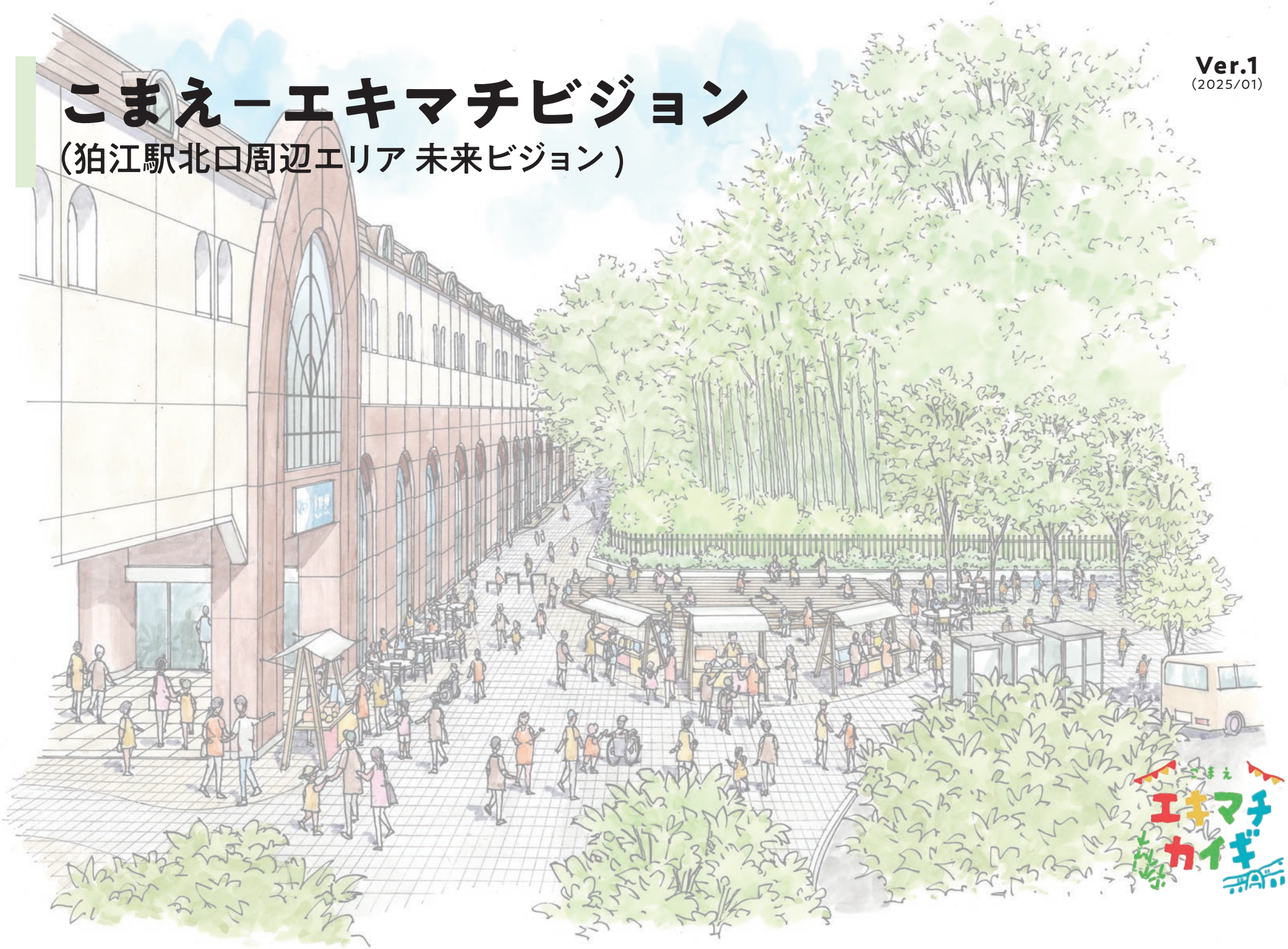
こまえ－エキマチビジョン

（狛江駅北口周辺エリア 未来ビジョン）

Ver.1
（2025/01）



01／ビジョンの目的・位置付け、対象エリア

こまえ－エキマチビジョンは、官民連携のまちづくりを進めるために関係者が共有する**狛江駅北口周辺エリアの将来像**です。

エキマチビジョンの目的・位置付け

- こまえ-エキマチビジョン（狛江駅北口周辺エリア　未来ビジョン）は、令和５年３月に市が策定した「狛江駅周辺エリア　道路利活用方針」を踏まえ、狛江駅北口周辺における官民連携のまちづくりを推進するため、地域の住民や団体、事業者、行政機関等の関係者や、このエリアの空間を活用する“プレイヤー”の皆さんで共有する対象エリアの将来像です。
- このエキマチビジョンでは、現在の狛江駅周辺の状況と狛江市が持つ強みや特徴を踏まえて、狛江駅北口周辺エリアの将来イメージと、その実現に向けた各施策の方向性やロードマップ、役割分担を整理しています。
- これからの狛江駅北口周辺エリアで、様々な主体がそれぞれの活動を展開していく際の指針として、このエリアが持つ独自の価値や可能性を、皆で共有し、広げていくために策定するものです。

エキマチビジョンの対象エリア

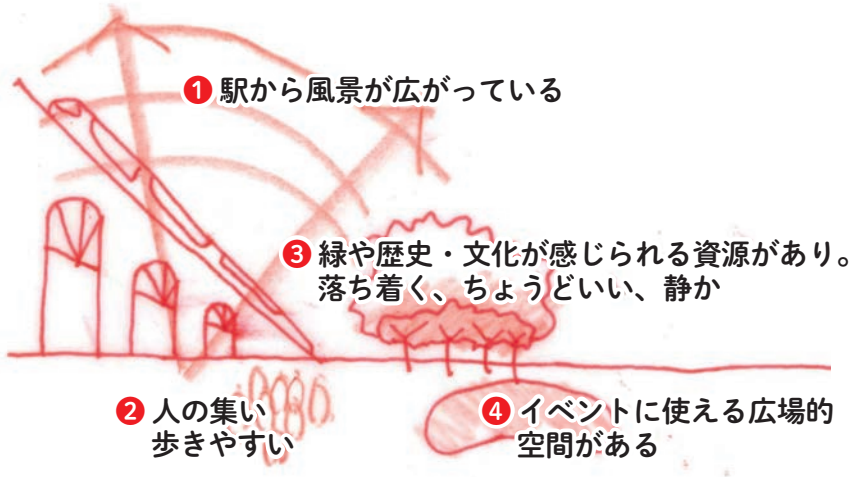
- このエキマチビジョンは、狛江駅北口周辺の一帯のエリアのうち、市道や広場をはじめとした市が管理する公共用地を主な対象とします。
- このうち、市道3号線/236号線/237号線/238号線は、国の「歩行者利便増進道路（ほこみち）制度」による管理運用を行います。

※狛江駅南口側のまちづくりについては、現在、地区まちづくり協議会と行政による検討が進められています。このえきまちビジョンの推進にあたっては、南口側のまちづくり活動との連携を図りつつ、将来的な狛江駅周辺エリア全体へのエリアマネジメント導入の可能性も見据え、南口側の検討状況を注視していきます。

02／狛江駅北口周辺エリアの現状

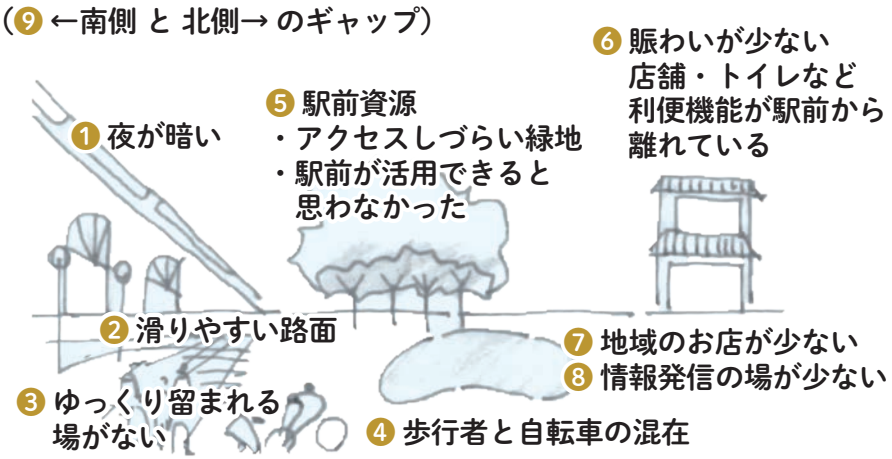
狛江駅北口周辺エリアは、駅前でありながら、人がゆっくり過ごすための緑や歴史・文化といった地域の資源に恵まれていますが、その一方で、賑わいを生み出すしかけやしくみ、設備に乏しく、本来の価値を充分に発揮できていません。

良いところ



- 駅を出ると目の前に広がる狛江弁財天池特別緑地保全地区の自然は、地元団体による管理がなされ、駅前の良好な景観形成に寄与していると同時に、周辺の空間に静けさや落ち着きを与えてくれています。
- 駅のすぐそばに、泉龍寺をはじめとして、地域の歴史や文化を感じることができる資源が存在しています。
- 噴水ステージなど、主にイベント利用によってこのエリアの賑わいを生み出すことができる広場的な空間があります。

少し足りないところ

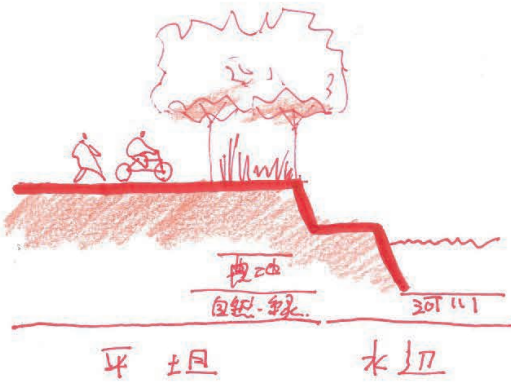


- 駅周辺は商業的価値も高いエリアですが、飲食店など、日常のなかで人が滞留できる空間に乏しく、情報発信も少ないことから、恒常的な賑わいは生まれづらい環境になっています。
- 多くの人が毎日通る場所でありながら、日常のなかで地域のお店を感じられることが少ない空間になっています。
- 夜が暗い、滑りやすい、歩行者と自転車の混在など、道路設備に起因する問題も見られます。（※令和5～6年度に実施した道路改修工事により一定の改善が図られています）

03／狛江市の強み・特徴

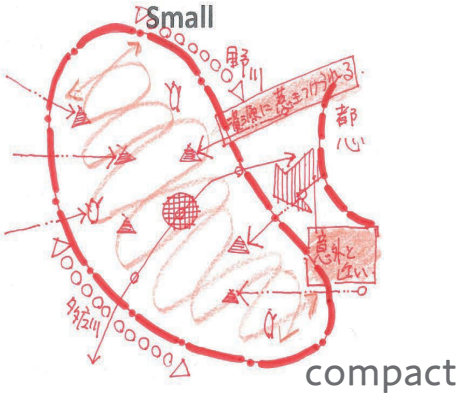
狛江市は、市域が平坦で、自然も豊か。小さくコンパクトにまとまっていて、交通利便性も高く、ローカルな資源も豊富。
これらの強み・特徴により生みだされる“まちと人の近さ”は、駅周辺エリアの将来像に繋がる狛江独自の価値と言えます。

1 平坦｜自然豊か
Flat　Nature



平坦で暮らしやすく、
豊かな自然が身近にあるまち

2 小さく、コンパクト 交通利便
Small & Compact
Accessible



市域が狭く、コンパクト。他の地域との行き来もしやすく、市内外の様々なことに触れられるまち

3 ローカルな資源
Local

“狛江ならでは”の魅力溢れる
コンテンツがたくさんあるまち

“まち”も　**近　い**　“ひと”も
Close

04／駅前エリアの将来の姿（コンセプト）

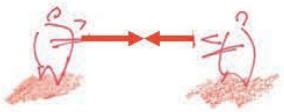
ひととまち、ひととひとがつながる狛江駅前。歩行者中心の居心地がよい空間で、狛江ならではの新しいコミュニケーション（シン・コミュニケーション）が次々と生まれ、その賑わいが狛江のまち全体に向かって滲むように広がっていきます。

狛江駅前で目指す空間

駅前空間の活用により

つながる MeetUP

ひととまちが →　　← ひととひとが



日　常

歩行者中心で
居心地の良い
空間の形成

活気があふれる
＋小さな活動の積み重ね

多様なコミュニケーションを
可能とするしかけ・雰囲気づくり

継続的な活動を支える
しくみ・基盤づくり

将来の姿

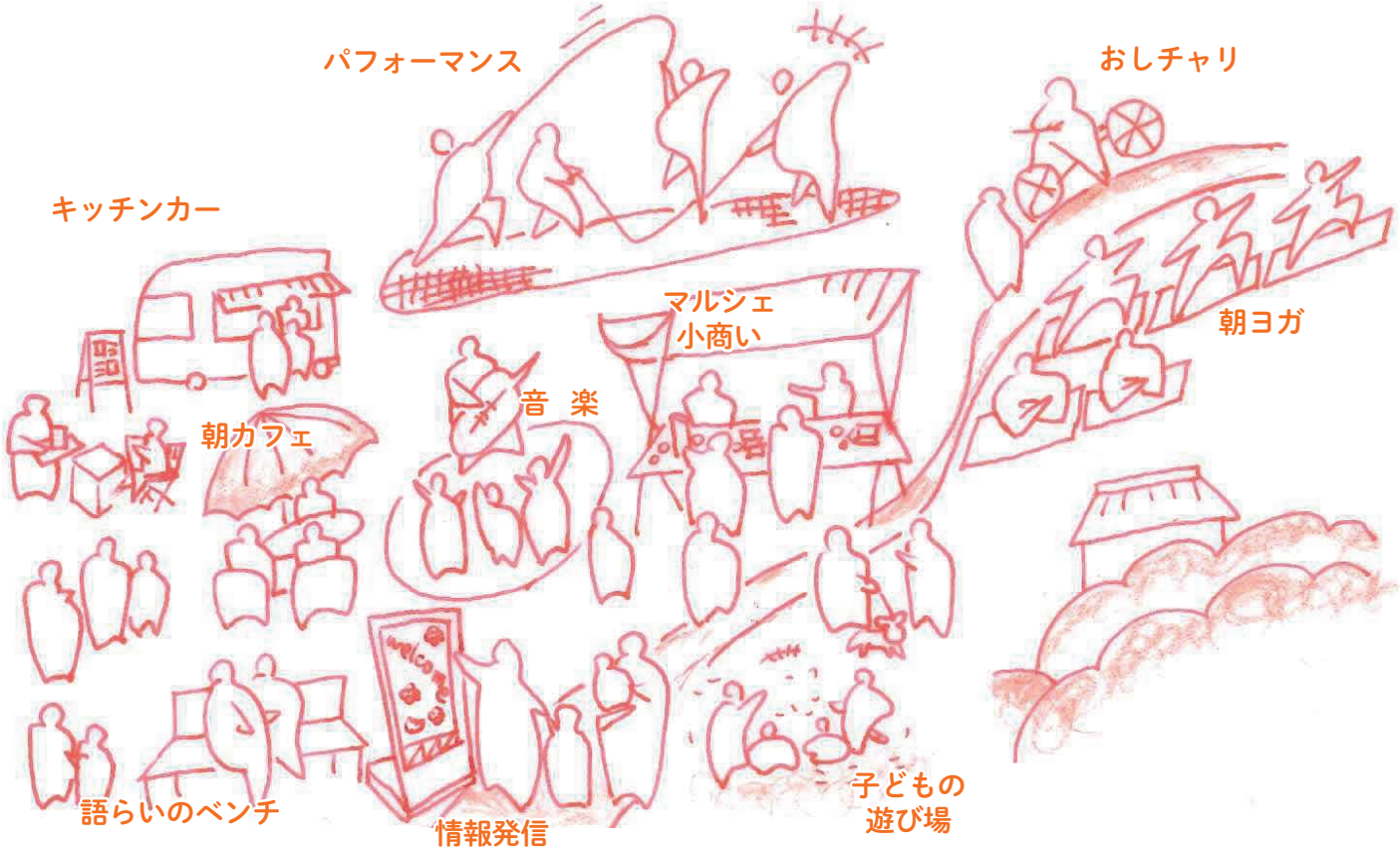
シン・コミュニ
ケーションが
次々に生まれる
“新しい日常”

○駅前空間から
まちに向かって滲みだす

- ハード整備により生み出された、居心地の良い駅前空間。ほこみち制度によって、駅前の道路空間は柔軟に活用できるようになり、日々、小さな活気が溢れる空間が駅前に生まれます。
- そこでは、これまであまり交わることのなかった人たちが、駅前という同じ空間に“偶然”居合わせることで、新たな交流やつながりが次々と生まれていきます。
- もちろん、無理に人と関わらず、ただこの空間にいるだけでも全然OK。多くの人が行き交う駅前の日常の営みに触れることで、何かを感じ、刺激を受けることを、狛江の駅前ならではの新しいコミュニケーション（シン・コミュニケーション）と呼びます。
- 日々の小さな活気あふれる日常は、そのようなシン・コミュニケーションを生み出していくための１つの“しかけ”です。
- 市内に住んでいる人がたくさんのヒト・モノ・コトに触れ、市外から来た人が狛江の魅力を感じる狛江の“ショーケース”。この駅前空間からまちに向かって、新しい日常が滲むように広がっていきます。

05／駅前エリアの日常の風景/利用シーン

狛江駅前に行くと、誰もが思い思いの時間を過ごしている。静かに過ごしている人もいれば、何かにチャレンジしている人もいる。
「これまでの非日常が、少しずつ日常になっていく」　これが、新しい狛江駅前の風景です。



・狛江の駅前で生まれるシン・コミュニケーション。同じ空間のなかで、ひととまちがつながり、ひととひとがつながる。色々な人が出会い、一人ひとりのつながりの輪が広がっていく。

・そのために、駅前空間は一人ひとりのやりたいコトを積極的に応援する、懐の広い空間であることが必要です。

例えば、
地域のお店が、自分たちのお店を紹介するためのポップアップストアを出していた。
知り合いが自分でつくったアクセサリーのお店を開いているのを偶然見つけた。
会社帰りに覗いたイベントが予想外に楽しくて少し元気が湧いてきた。
学校帰りの中学生が、教科書を出して勉強したり、スマホ片手に友達とお喋りしたり。
青春の１ページが、この狛江の駅前で刻まれる。

・駅前空間で、それぞれの人が思い思いに時間を過ごすなかで、そこにいるヒト・コト・モノから様々なきっかけを受け取り、日々の生活が豊かになっていく。そんな風景がどんどん広がっていく、そんな空間をつくります。

みんなの

06／将来の姿の実現に向けたロードマップ

『04／駅前エリアの将来の姿（コンセプト）』の実現に向けて、地域の住民・団体・事業者・行政機関等の関係者や駅前空間を活用するプレイヤーが、**みんなで4つの施策方針を共有**しながら、それぞれのアクションを積み重ねていきます。

現状（2023/2024年度）	短期（2025年度から概ね3～5年）	中長期（2025年度から概ね10～20年）
えきまち会議→ エキマチカイギの組成	トライアル期	定着・発展期

エキマチビジョンの策定

1・継続的な活動を支えるしくみ・基盤づくり
- 多様なバリエーションをもったエキマチカイギの開催
- エキマチカイギによる情報共有と、空間活用のプロトタイプ
- デジタル×アナログのハイブリット型の「まちの情報発信」

2・歩行者中心で居心地の良い空間の形成
安全で快適な歩行空間を維持する日常管理とマナーの定着
狛江の駅前らしい、緑地を生かした空間づくり
ゆったりと心地良く過ごせる、“音”のある空間づくり

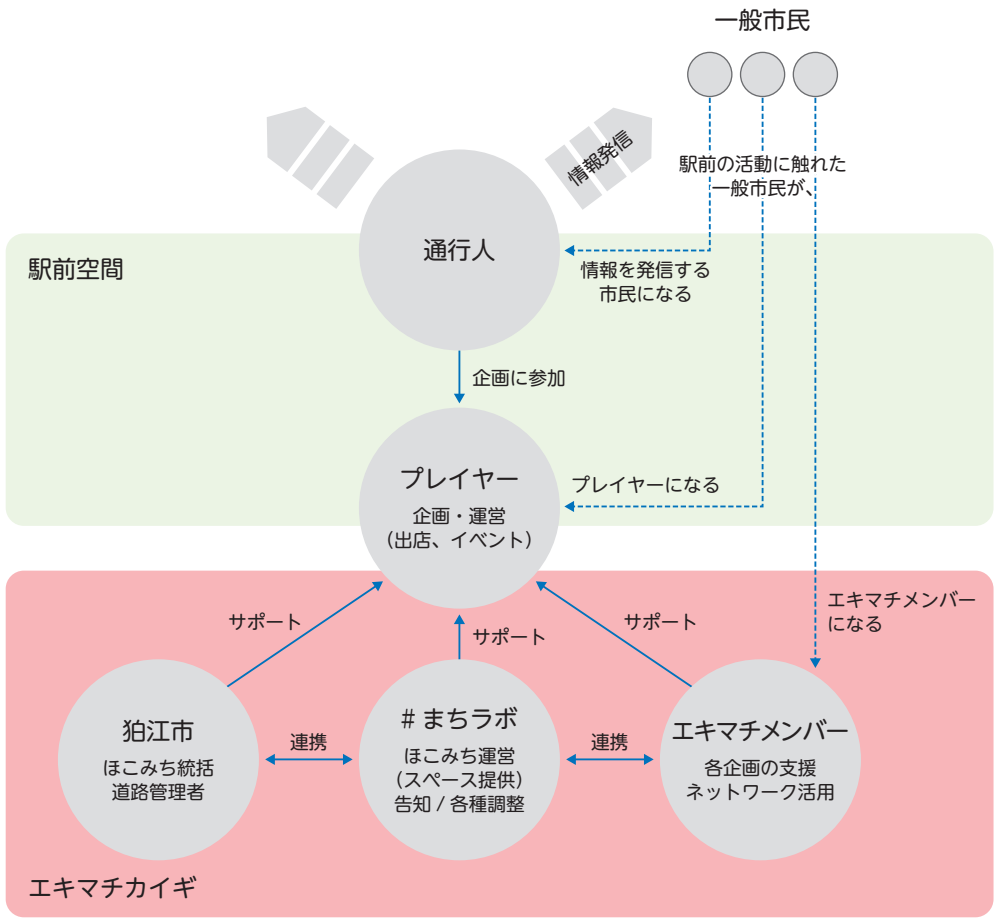
3・活気があふれる小さな活動の積み重ね
市民が気軽に参加しやすいしかけや工夫
空間利用のハードルを下げる「ほこみち相談窓口」と手続きの簡素化
市民の利活用が促進されるエリアマネジメントとトライアル的事業の推進

4・多様なコミュニケーションを可能とするしかけ・雰囲気づくり
市民による“小さな”コミュニティ活動の活性化
身近なツールやコンテンツを介した多世代の市民交流
子ども・若者のための活動（参加）のきっかけづくり

シン・コミュニケーションが次々に生まれる〝新しい日常〟

07／役割分担

狛江駅前の空間活用にあたっては、エキマチカイギが中心となって、エキマチカイギメンバー・狛江市・まちラボがそれぞれの役割をもって、空間活用のプレイヤーをサポートします。



- エキマチカイギは、狛江駅前の空間活用のオープン・プラットフォームとして、空間活用に関する情報を共有しながら、プレイヤーの育成・循環を図る組織体です。
- エキマチカイギでは、メンバーは相互に協力し、それぞれの役割をもってプレイヤーの活動をサポートすると同時に、エキマチカイギを通じて自らの活動領域である駅前空間の“デザイン”に参画します。
- 駅前で行われる活動を見て、「私も駅前で何かやってみたい」「私にもできることがあるかな？」と感じ、何らかの形で駅前の活動に関わることで、空間活用がより豊かになっていきます。

08／リーディング・プロジェクト

『06／将来の姿の実現に向けたロードマップ』に向けたアクションのうち、特に短期（トライアル期/2025年度から概ね3～5年）のスパンのなかで、先行して進めていく5つのリーディング・プロジェクトを定めます。

#1 エキマチカイギ

狛江駅周辺エリアの空間活用におけるオープン・プラットフォームとして、官民が連携し、プレイヤーのサポートと空間活用の人材育成・循環に取り組みます。

08／リーディング・プロジェクト

『06／将来の姿の実現に向けたロードマップ』に向けたアクションのうち、特に短期（トライアル期/2025年度から概ね3～5年）のスパンのなかで、先行して進めていく5つのリーディング・プロジェクトを定めます。

#2 まちの情報発信

多くの人が行き交う駅前の立地を生かして、市内外の多様な人材を惹きつけ、賑わいがまちに波及していくような情報発信・プロモーションを展開します。

#3 マナーアップ

ほこみちエリアにおける日常清掃のほか、“おしチャリ”や放置自転車の防止をはじめとした駅前の環境美化に向けた利用者のマナーアップに取り組みます。

08／リーディング・プロジェクト

『06／将来の姿の実現に向けたロードマップ』に向けたアクションのうち、特に短期（トライアル期/2025年度から概ね3～5年）のスパンのなかで、先行して進めていく5つのリーディング・プロジェクトを定めます。

#4 トライアル推進

狛江らしい空間活用の促進と、空間活用のバリエーションを増やし、プレイヤーの裾野を広げるためのトライアル（社会実験）とデータ活用を推進します。

#5 交流拠点の検討

駅前の空間活用も含めて、広く狛江のまちづくりに関わる人材が集積し、交流が生まれるような拠点の整備を検討します。

参考　かわのまちリビング（兵庫県加古川市）

2025年2月発行
発行　（一社）狛江まちみらいラボ
狛江市和泉本町1-1-5　狛江市役所4F
info@mlab-komae.jp